



図1. アサヒギンボ *Springeratus xanthosoma*. A, BSKU 7703, 49.9 mm SL (♀); B, BSKU 56270, 40.6 mm SL (♂); C, BSKU 55169, 66.4 mm SL (♀).

魚類学雑誌  
56(2): 184-186

### Kamohara (1958) が“ベニアサヒギンボ”とした標本の 再同定と高知県からのアサヒギンボの記録

#### Re-identification of the Kamohara (1958)'s “*Petraites roseus*” and records of *Springeratus xanthosoma* from Kochi

アサヒギンボ科 Clinidae には世界で3族約20属74種が知られ、そのうちインド洋-西太平洋の温帯域を中心に分布するアサヒギンボ族 Clinini には11属約53種が含まれる (Nelson, 2006). 日本周辺にはアサヒギンボ族のアサヒギンボ *Springeratus xanthosoma* (Bleeker, 1857) とベニアサヒギンボ *Heteroclinus roseus* (Günther, 1861) (Kuitert, 1993 により *Petraites* から帰属変更) の2属2種のみが分布するとされてきた (荒賀, 1984, 1988; 藍澤, 1993, 2000). アサヒギンボはインド洋-太平洋の熱帯域を中心に広く分布し、日本では和歌山県南部、種子島、奄美大島および沖縄島からの記録がある (Jordan and Starks, 1906; Suzuki, 1964; Yamakawa, 1969; Shen, 1971; Fraser, 1972; 荒賀, 1984; 藍澤, 1993; 沈, 1993). 一方、ベニアサヒギンボはオーストラリア南部沿岸に分布する (Hoese et al., 2008). また、北西太平洋では唯一日本からの記録がある。これは Kamohara (1958: 70) による記録で、高知県土佐清水市沿岸のタイドプールから採集された1個体の標本に基づき、高知県産魚類リストの

中でベニアサヒギンボの和名が与えられたものである。その後、蒲原 (1960: 15) はベニアサヒギンボの標本の採集情報について簡単に追記したが、同定の根拠となる標本の特徴や登録番号を記載していない。Kuitert (1993) は日本での採集記録について、*H. roseus* とは異なる未記載ではないかと疑問視した。しかしながら、標本が再調査されることなく、Kamohara (1958) の記録が引用されてきた (Kamohara, 1964; 荒賀, 1984; 藍澤, 1993, 2000).

2001年11月、第1著者の遠藤は Kamohara (1958) がベニアサヒギンボ“*Petraites roseus*”に同定した標本 (BSKU 7703) を高知大学理学部の魚類標本コレクションから発見した。標本台帳にある採集データと標本の全長は、蒲原 (1960: 15) の「1957年12月に土佐清水のタイドプールで62耗のものを本学の学生が1尾採集した」という記述に一致する。この標本を再同定したところ、アサヒギンボであることが判明した。Aizawa (2002: 1591) はこの情報を遠藤の私信として引用し、ベニアサヒギンボを検索表から削除した。しかし、その同定の根拠には言及しておらず、Kamohara (1958) が“ベニアサヒギンボ”と同定した標本の詳細も公表されていなかった。このようなことから、本稿では Kamohara (1958) の標本、およびその後土佐湾沿岸のタイドプールで採集されたアサヒギンボ3個体の特徴を詳細に報告する。調査標本は高知大学理学部海洋生物学研究室 (BSKU) と高知高等学校 (KSHS) に所蔵されている。計数と計測方法は Shen (1971) に従い、全長と標準体長をそれぞれ TL と SL と略記した。

高知県産のアサヒギンボ4標本の特徴は次のとおりである(変異のある計数形質については, BSKU 7703の値を括弧内に示す). 背鰭鱗条数 III, XXVI-XXVII, 4-5 (III, XXVI, 5). 臀鰭鱗条数 II, 20-21 (II, 21). 胸鰭鱗条数 13. 腹鰭鱗条数 I, 3. 尾鰭鱗条数 13. 側線上横列鱗数 48-52 (50). 第1鰓弓下枝上の鰓耙数 7-8 (7). 脊椎骨数(腹椎骨+尾椎骨=合計) 14+26=40. 体高 21.6-29.3% (21.6) (SLに対する百分率, 以下同様). 背鰭前長は 16.6-19.1% (17.7). 第2背鰭前長 25.3-30.1% (30.1). 臀鰭前長 45.5-49.9% (48.3). 第1背鰭第1棘長 12.8-14.2% (13.3). 第2背鰭第1棘長 5.9-7.6% (7.3). 臀鰭第1棘長 6.1-6.8% (6.8). 尾柄長 8.1-8.9% (8.2). 尾柄高 5.6-6.6% (5.6). 頭長 28.1-29.4% (29.3). 吻長 19.9-23.8% (19.9) (頭長に対する百分率, 以下同様). 眼径 24.5-27.3% (24.9). 眼後長 55.6-58.5% (57.3). 両眼間隔幅 13.5-15.1% (14.0). 上顎長 38.9-43.3% (38.9).

背鰭は2基で, 第1背鰭が高い. 背鰭後端の軟条は鰭膜で尾鰭基部上端につながる. 各鰭の軟条は分枝しない. 前鼻孔の皮弁は単一で分枝しない. 眼上皮弁はよく発達し, 薄い掌状で, 6-8本の指状の分枝がある. 前鋤骨と口蓋骨に歯がある. 体は皮下に埋没する小円鱗で覆われる. 肛門と生殖腔を囲む皮弁 (genital valve) がある. 雄の交接器は太短く, 先端部は細長く伸長する. 生鮮時の頭部と体は褐色で, 頭部下面と腹部は黄色みを帯びた淡褐色. 頭部後方と体側には背鰭と臀鰭にかかる8本の不明瞭な暗褐色横帯がある. 横帯を除く背鰭と臀鰭の鰭膜は不透明か透明. 尾鰭中央部の鰭膜は透明. 小型個体では, 眼の後下方に白色斑 (BSKU 56270) や体に暗色の小斑点が散在する (BSKU 65133). エタノール液浸後には, 頭部と体は淡黄色から山吹色. 各鰭は淡黄色から白色.

アサヒギンボ族は卵胎生であることが知られる (Gunn and Thresher, 1991; Nelson, 2006). 観察標本の雌 (BSKU 55169) の卵巣内には, 全長約6-7mmの卵黄吸収後の仔魚が多数確認された.

Kamohara (1958) が“ベニアサヒギンボ”とした BSKU 7703 と高知県産の3標本の特徴は, いずれも Shen (1971) のアサヒギンボの記載と Yamakawa (1969) が報告した奄美大島産の2標本の特徴によく一致した. “ベニアサヒギンボ” *Heteroclinus roseus* は, Günther (1861: 274), Kuitert (1993: 331) および Hoese et al. (2008: 712) によると, 尾鰭鱗条数が9-11 (通常9) (アサヒギンボの観察標本では13), 吻長と眼径がほぼ等しい (吻長がやや短い), 前鼻孔の皮弁が分岐する (分岐しない), 眼上皮弁がよく発達し縁辺が丸い (多数の分枝がある), 口蓋骨に歯がない (ある), 尾柄部が細い (太い) ことでアサヒギンボとは明瞭に異なる. したがって, BSKU 7703 に基づく“ベニアサヒギンボ” *H. roseus* の日本での記録は誤りである.

Shen (1971) はアサヒギンボ属 *Springeratus* Shen, 1971 を設立し, アサヒギンボ族の他属とは, 口蓋骨歯をもつ

こと, 肛門と生殖腔を囲む皮弁 (genital valve) が発達することで異なるとした. 現在, 本属には *S. xanthosoma* のほかに, ニューカレドニアから記録された *S. caledonicus* (Sauvage, 1874) とインド洋のモーリシャスに分布する *S. polyporatus* Fraser, 1972 が知られる (Fraser, 1972; Hoese, 2006). しかし, Fraser (1972) は本属の有効性に疑問を呈し, 広範囲に分布するアサヒギンボについて再検討が必要であるとした. 本稿では日本における“ベニアサヒギンボ”の記録の誤りを指摘するとともに,

藍澤 (1993, 2000) と Aizawa (2002) はアサヒギンボの学名をそれぞれ“*Springeratus xanthosema*”および“*Springeratus xanthosema*”と綴りを誤っており, *Springeratus xanthosoma* が正しい (Bleeker, 1857; Shen, 1971).

最後に, 標本の採集にご協力頂いた矢野 誠氏と井本善次氏 (高知大学海洋生物研究教育施設), 町田吉彦博士 (高知大学理学部) および高知大学理学部海洋生物学研究室 OB 諸氏, 比較標本と文献を貸与して頂いた山川 武氏 (高知市), そして有益なご指摘を頂いた匿名の校閲者2名に感謝する.

**観察標本** アサヒギンボ: BSKU 7703, 49.9 mm SL, 60.1 mm TL (♀), 1957年12月, 高知県土佐清水市付近のタイドプール, 採集者: 岡村 収, 野田忠宏, 尼岡邦夫, 平田常雄; BSKU 55169, 66.4 mm SL (♀), 2001年7月24日, 高知県土佐市横浪半島白の鼻タイドプール, 採集者: 中江雅典; BSKU 56270, 40.6 mm SL (♂), 2001年11月2日, 高知県土佐市横浪半島白の鼻タイドプール, 採集者: 能津英仁; BSKU 65133, 52.5 mm SL (♂), 2003年6月30日, 高知県幡多郡黒潮町熊ノ浦タイドプール, 採集者: 町田吉彦, 高田陽子, 坪井美由紀.

**比較標本** アサヒギンボ: KSHS 9340, 52.5 mm SL (♀), KSHS 9341, 61.4 mm SL (♂), 鹿児島県奄美大島 (Yamakawa, 1969).

## 引用文献

- 藍澤正宏. 1993. アサヒギンボ科. 中坊徹次 (編), pp. 949, 1351-1352, 日本産魚類検索: 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 藍澤正宏. 2000. アサヒギンボ科. 中坊徹次 (編), pp. 1087, 1601, 日本産魚類検索: 全種の同定 (第二版). 東海大学出版会, 東京.
- Aizawa, M. 2002. Clinidae. Pages 1087, 1591 in T. Nakabo, ed. Fishes of Japan with pictorial keys to the species, English edn. Tokai University Press, Tokyo.
- Bleeker, P. 1857. Descriptiones specierum piscium javanensium novarum vel minus cognitarum diagnosticae. *Natuurkundig Tijdschrift voor Nederlandsch Indië*, 13: 323-368.
- 荒賀忠一. 1984. アサヒギンボ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), p. 281, 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 荒賀忠一. 1988. アサヒギンボ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), p. 281, 日本産魚類大図鑑 (第2版). 東海大学出版会, 東京.
- Fraser, T. H. 1972. A new species of the klipfish genus *Springeratus* (Clinidae) from the Indian Ocean. *J.L.B. Smith Inst. Ichthyol., Spec. Publ.*, (9): 1-14.

- Gunn, J. S. and R. E. Thresher. 1991. Viviparity and the reproductive ecology of clinid fishes (Clinidae) from temperate Australian waters. *Env. Biol. Fish.*, 31: 323–344.
- Günther, A. 1861. Catalogue of the acanthopterygian fishes in the collection of the British Museum, 3: 1–586.
- Hoese, D. F. 2006. Clinidae. Snake Blennies, Weedfishes. Pages 1529–1539 in D. F. Hoese, D. J. Bray, J. R. Paxton and G. R. Allen, eds. *Zoological catalogue of Australia*. vol. 35: Fishes, part 3. ABRIS & CSIRO Publishing, Collingwood.
- Hoese, D. F., M. F. Gomon and D. S. Rennis. 2008. Family Clinidae. Weedfish, Snakeblennies. Pages 696–722 in M. Gomon, D. Bray and R. Kuitert, eds. *Fishes of Australia's southern coast*. New Holland Publisher, Sydney.
- Jordan, D. S. and E. C. Starks. 1906. List of fishes collected on Tanega and Yaku, offshore islands of southern Japan, by Robert Van Vlech Anderson, with description of seven new species. *Proc. U. S. Natn. Mus.*, 30: 695–706.
- Kamohara, T. 1958. A catalogue of fishes of Kochi Prefecture (Province Tosa), Japan. *Rep. Usa Mar. Biol. Sta.*, 5(1): 1–76.
- 蒲原稔治. 1960. 高知県沖ノ島及びその付近の沿岸魚類. 高知大学学術研究報告, 9 (自然科学I) (3): 1–16.
- Kamohara, T. 1964. Revised catalogue of fishes of Kochi Prefecture, Japan. *Rep. Usa Mar. Biol. Sta.*, 11(1): 1–99.
- Kuitert, R. H. 1993. *Coastal fishes of South-Eastern Australia*. Crawford House Press, Bathurst. 437 pp.
- Nelson, J. S. 2006. *Fishes of the world*. 4th ed. John Wiley and Sons, Inc., Hoboken. xix+601 pp.
- Shen, S. C. 1971. A new genus of clinid fishes from the Indo-Pacific, with a redescription of *Clinus nematopterus*. *Copeia*, 1971: 697–707.
- 沈世傑. 1993. 臺灣魚類誌. 國立臺灣大學動物學系, 台北, xx+960 pp.
- Suzuki, K. 1964. Results of the Amami Expedition. II. *Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie*, 5: 153–188.
- Yamakawa, T. 1969. Additional records of marine fishes from Amami (III). *Rep. Usa Mar. Biol. Sta.*, 16(2): 1–16.

(遠藤広光 Hiromitsu Endo · 片山英里 Eri Katayama : 〒780–8520 高知市曙町2–5–1 高知大学理学部海洋生物学研究室 e-mail: endoh@kochi-u.ac.jp ; 中江雅典 Masanori Nakae : 〒169–0073 新宿区百人町3–23–1 国立科学博物館標本資料センター)